

社会民主主義 フォーラム青森 通信

NO.44 2026年1月23日
フォーラム青森
〒030-0802
青森市本町3丁目3番11号
青森県平和労組会議気付
forum-ao2021@outlook.jp
080-5413-2848 (事務所専用 TEL)

大義なき衆院解散 身勝手そのもの

社会民主主義フォーラム会員の皆さん、本来であれば、新年のご挨拶を申し上げるところですが、高市総理の大義の無い衆議院解散、総選挙が行われますので、選挙後に後回しにします。さて、高市総理の解散の理由の一つに、高市総理で良いのか、日本維新の会の連立政権で良いのかを、国民の皆さんに「信を問う」との事。どう言う意味なのか、理解が出来ません。

昨年の参議院選挙後の自民党内での混乱で、国会が3ヶ月国民生活のための議論がなされず、国民は物価

高の中放置をされてきました。

その後の物価高騰対策も大企業の経済対策が中心なのか、株価が上がリ、円安が進み、輸入品が高騰、物価が上がリ続けています。こんなに国民が苦しんでいるのに、物価高対策には目もくれず、世論調査の高市政権の支持率を背景に解散に踏み切りました。身勝手そのものです。国民の皆さんから白紙委任状を取り付けるための解散に見えます。高市政権がこれまで何をしていたのか、今後何をしようとしているのか、全く見えず不安に駆られます。

私をもっとも心配しているのが、核兵器の開発です。

こんな、高市政権に歯止めをかけるため、立憲民主党と公明党が新政党を立ち上げました。

新政党の発表までの経過や、新党の綱領に疑問を持たれている、会員の方もおられるかと思いますが、高市政権の暴走を止めるため、全会員心一つにして、1区「升田せきお」・2区「松尾和彦」・3区「岡田華子」3候補の当選を勝ち取りましょう。短期間での選挙戦となりますが、フォーラム会員総力を挙げて頑張りましょう。取り急ぎの檄文になりますが、皆様方のご理解ご協力をお願い致します。(代表 藤田まこと)

公明党と立憲民主党が新党をつくるという報道を目にした。正直、驚いた。「選挙前の数合わせではないか」という声も聞こえてきそう。だけど、昨年10月11日に投稿したように、ベーシックサービスを提唱してきた僕だけに見えていた景色がある。

公明党「2040年ビジョン検討委員会・中間取りまとめ」(2024年9月22日):「創造的福祉社会をめざす個別具体的な制度の構築に際しては・・・いわゆるベーシック・サービスの考え方を踏まえて取り組みます」「『弱者を助ける社会』から『弱者を生まない社会』への転換を促し、助けを必要とする人々の尊厳を守りつつ、『社会的分断』を防ぎます」

立憲民主党野田佳彦代表の決選投票前の演説(2024年9月23日):「教育無償化のみならず、医療・介護・障害者福祉などのベーシックサービスを所得制限なくすべて国が供給していく体制を作り、『弱い人を助けるための政治』はもう終わりにし『弱い人が生まれない社会』をつくる」

わずか一日違いで発せられた、二つのメッセージ。当時、公明党は与党、立憲民主党は野党だった。立場は違っても、語っている言葉は同じではないか。僕はずっとそう感じてきた。だからこそ、政権離脱後の公明党・西田幹事長の次の発言にも納得した。

公明新聞「中道改革の結集軸示す」(2025年11月26日):「公明党の西田実仁幹事長は25日、国会内で記者会見し、29日に全国県代表協議会を開催することに触れ『公明党が考える中道改革の輪郭を示したい。今の時代における中道改革の結集軸として、理念や考え方に他の政治勢力の協力を得るための判断基準としたい』と力説した。

その上で、結集軸となる具体的な政策の柱の一つとして社会保障改革を挙げ『尊厳を大事にした弱者を生まない社会をつくり出す意味から、ベーシック・サービスの考え方を基本にして改革を進める』と強調」

振り返れば、僕がかつて民進党の皆さんと関わっていた舞台も、「尊厳ある生活保障総合調査会」だった。「命」と「尊厳」。この二つの言葉は、僕の中ではベーシックサービスでつながっていたし、二つの政党の底流に確かに存在する価値だった。

昨年末に超党派で結成された「ベーシックサービス推進地方議員連盟」では、公明党と立憲民主党の地方議員が先行して一つになった。「尊厳ある生活保障総合調査会」のときもそうだったが、人びとの暮らしを守る政策を語る議員さん一人ひとりには、本当に熱く、生き生きとされていた。

政治はときに人智を超える。だが、真剣に社会のこれからを考えている人たちがたくさんいる。公明、立憲、国民、自民・・・党が一つになろうと、ならなかつと構わない。「ラディカル(本源的)な中庸」を目指し、心ある人たちにはぜひ連帯してほしい。

僕たちはいま、「極端主義」の時代を生きている。僕たちはいま、「未来の人びとの歴史」を生きている。大切に生きよう。(井手英策:慶應義塾大学准教授)

左記の投稿は、1月15日のフェイスブックに投稿されたものを、田名部まさよ参議院議員がシェアしたものです。

19日には、「中道改革連合」の綱領(2面に掲載)が発表され、高市総理も「23日の国会冒頭解散」を明らかにしました。

1月27日告示、2月8日投開票という超短期間の選挙戦になりますが、立憲の選対と協議(社民フォーラムは31日に幹事会)しながら「升田せきお」「松尾かずひこ」「岡田はなこ」と「中道」勝利に向け、取り組みを進めていきます。

(佐藤康弘)

「中道改革連合」の基本政策

生活者ファーストの政治の実現へ

～ より良い未来に向けた社会のかたちの再設計 ～

世界的なインフレの進行、格差の拡大、気候変動、国際秩序の不安定化などにより、世界は今、かつてないほど不確実性の高い時代に直面している。若年層をはじめとする生活者が抱える不安は、既存の政治への失望へと転じ、その隙間を突くように、分断をあおる極端な政治が台頭する風潮が生じている。

この不確実性の時代において、良識ある政治と社会の安定を取り戻すために必要なのは、イデオロギーや対立を優先する政治ではなく、生活者一人ひとりの現実から出発する政治である。中道改革連合は、「生活者ファースト」を政治の原点に据え、平和を守る人間中心の社会の実現をめざす。

私たちは、立憲主義を政治の土台とし、権力の濫用を防ぎ、個人の尊厳と自由を守る。同時に、多様な価値観や生き方を尊重し、共生と支え合いによって地域・社会の安定と活力を高めていく。対話と包摂を重んじる中道の立場こそが、今の時代に求められる政治の姿である。

この考えのもとに結集した「中道改革連合」は、5つの柱からなる基本政策を掲げ、不安よりも希望が感じられる社会の構築をめざす。生活者一人ひとりのくらしを豊かにする持続的な経済成長、現実的な外交・安全保障政策、責任あるエネルギー安全保障政策、時代に対応した憲法改正論議の深化など、国が存立する基盤を生活者の視点で強化していく。

とりわけ、かつて終身雇用や安定した資産形成が可能であった時代とは異なり、非正規雇用の拡大、実質賃金の低下、住宅価格の高騰、国民負担率の上昇などにより、現在の若年層・現役世代は、努力しても報われにくい現実直面している。私たちはこの現実を放置することなく、あらゆる英知を結集し、社会の仕組みそのものを現代にふさわしい形へと再設計していく。

増税に頼るのではなく、経済成長と公正な分配によって持続可能な財源を確保できる国へと進化させ、市場との対話を通じた財政への信頼とインフレ時代に対応した税制を両立させる「生活者ファーストの賢い財政」を実現する。また、「現役世代に負担を求める社会保障」から、応能負担を通じた「現役世代も同時に支える社会保障」へと転換を図る。加えて、教育・雇用・分配の仕組みを生活者の視点で見直し、誰もが置き去りにされることなく、いつでも前を向いて歩み続けることができる社会を構築する。

以上の考えに立ち、中道改革連合は、生活者一人ひとりの不安を安心へ、停滞を前進へと変えるため、次に掲げる5つの政策の柱をもって、「生活者ファースト」の中道改革を着実に実行する。

第1の柱～「一人ひとりの幸福を実現する、持続可能な経済成長への政策転換」～

- ① 生活者ファーストへの政策転換と、手取り対策にとどまらない額面が増える経済構造の構築
- ② 行き過ぎた円安の是正と、食料品・エネルギーなど生活必需品の物価引き下げ
- ③ 防災・減災および国土強靱化の強化に向けた、インフラ更新・流域治水・耐震化等への重点投資の推進

- ④ 再生可能エネルギーの最大限活用／将来的に原発に依存しない社会を目指しつつ、安全性が確実に確認され、実効性のある避難計画があり、地元の合意が得られた原発の再稼働／次世代技術の開発促進などによるエネルギー安全保障の確保と脱炭素社会を実現

第2の柱～「現役世代も安心できる新たな社会保障モデルの構築」～

- ① 政府系ファンド（ジャパン・ファンド）の創設や基金の活用などによる財源確保と、食料品消費税ゼロおよび社会保険料等負担の低減
- ② 医療・介護・障がい福祉・教育など、生きていく上で不可欠な公的サービスへのアクセスを保障するベーシック・サービスの拡充
- ③ 予防医療の充実による健康寿命の延伸と、国民のウェルビーイングの向上
- ④ 中低所得者の負担軽減と格差是正に向けた「給付付き税額控除制度」の早期導入、社会保障と税の一体改革への取り組み

第3の柱～「選択肢と可能性を広げる包摂社会の実現」～

- ① 教育の無償化拡大と質の向上、ならびに社会人・高齢者を含む学びなおし・リスキリングの制度的保障など「人への投資」の拡充
- ② 選択的夫婦別姓などジェンダー平等およびルールに基づく多文化共生などの推進による、マイノリティも含め誰もが尊厳を持って生きられる社会の構築
- ③ 持続可能な地球環境を未来に引き継ぐための、気候変動対策および生物多様性を守る環境政策の推進
- ④ 食の安全の観点も踏まえた農林水産業支援、地域資源の活用・育成、地域医療への支援などによる地域の活力と魅力の向上

第4の柱～「現実的な外交・防衛政策と憲法改正論議の深化」～

- ① 積極的な対話と平和外交の一層の強化／自由、民主主義、人権、法の支配などの普遍的価値や原則に基づく国際秩序の堅持
- ② 激変する安全保障環境へ適切に対応する防衛力等の整備／憲法の専守防衛の範囲内における日米同盟を基軸とした抑止力・対処力の強化／平和安全法制が定める存立危機事態における自国防衛のための自衛権行使は合憲／非核三原則の堅持
- ③ 中国に対する懸念への毅然とした対応と、国益確保を両立させる中長期的視点に立った戦略的互惠関係の構築
- ④ 立憲主義、憲法の基本原理を堅持した上で、国民の権利保障、自衛隊の憲法上の位置付けなどの国会での議論を踏まえ、責任ある憲法改正論議を深化

第5の柱～「不断の政治改革と選挙制度改革」～

- ① 政治資金の透明性・公正性を確保する法整備による、政治とカネをめぐる問題への終止符
- ② 企業・団体献金の受け手制限規制の強化／不正防止を担う第三者機関の創設
- ③ 民意を的確に反映する選挙制度への改革と、司法の要請および有識者の知見を踏まえた公正な制度への移行